

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503924		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グループホーム 澄川の丘 ほたる		
所在地	札幌市南区澄川6条7丁目1番1号		
自己評価作成日	令和4年4月20日	評価結果市町村受理日	令和4年7月7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム澄川の丘はデイサービスセンター澄川の丘(通所介護)と併設しており、お互いの機能を活かしながら交流を深めています。現在は、コロナ禍のために、開催はできておりませんが、歌の会や、体操教室、ヴァイオリン&ピアノコンサートなどを開催してまいりました。近隣には、中学校があり朝夕の登下校には元気な子供たちの声がリビングまで聞こえてきます。夕方のクラブ活動での吹奏楽の音も聞こえ、心を豊かにしてくれます。

・お看取りについてです。最期まで「澄川の丘」を希望される方にはお看取りをさせて頂いております。積極的な治療はせずに、往診の先生と看護師、介護職員と連携し出来る限り痛み、苦しみを緩和しお看取りをさせて頂いております。

・ご利用者様の自主性、自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで生きがいを感じて頂きたい。この場所を「我が家、又はも1つの我が家」と思っていたら出来るようなグループホームになるように努めている。

・働き方改革として、記録媒体を電子化し残業を減らし、会議、カンファレンスも業務内に行っており、有給休暇も取得できるよう人員も増員しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170503924-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170503924-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年5月26日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄り地下鉄駅やバス停から徒歩圏内にある住宅街に位置している。丘陵地帯でもあり西岡地区が一望でき、また、近所の庭に植えられている樹木や季節の花々、登下校の中学生の姿や話し声は利用者の癒しとなっている。広い敷地内にあるテラスでお茶会、ベンチで日光浴、色とりどりの花壇や菜園、周辺の緑豊かな景色を眺めながらの散歩等で五感刺激の場面作りに努めている。感染症予防対策を施しての面会やドライブで恒例の初詣、桜やランタナ、紅葉見物を行い、気分転換を図っている。高齢化に伴い転倒などが生じているが、必ず検証を行い、対策までの一連の流れを運営推進会議で報告するなど、透明性ある運営に努めている。職員は、利用者一人ひとりの心身の状態を共有し、要望があれば終の住処として暮らし続けられる支援に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで、理念を唱和していたが、現在はコロナ禍で、できなくなっているが、一人一人理念のもとに実践できている。	地域密着型サービスの意義を理解した法人理念を共有している。さらに職員間で話し合っ て策定したそれぞれのユニット理念を事業所の要所に掲示し、意識付けを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、大掃除や挨拶など行っているが、コロナ禍もあり十分とは言えない。	地域交流も相互に自粛しているが、回覧板で町内の情報が把握でき、年2回の清掃活動に職員が参加している。住民の介護相談には快く耳を傾けるなど、良好な関係を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高校生のボランティアの受け入れや、小・中学生の職業体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍において、受け入れができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナの影響により書面会議のみとなってしまったため、一方的な報告で終わり十分な話し合いが行われていない。	コロナ禍のため、年6回の運営推進会議は職員のみで行われている。事故報告として発生から対策までの一連の流れや、コロナ対策等を議事録にまとめ、推進委員に配布し、意見や助言を募っている。	管理者は、会議がなお一層の意見交換の場となるべく推進委員の拡大と議事録の整備(利用者や職員の状況、活動報告等)を考慮しているので、その取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や、今回もコロナに感染した職員や職員の家族がいた際など情報を共有し適切な指示を頂いている	管理者は、南区の地域ケア推進会議の代表でもあり、地域包括職員とは運営上においても意見や情報を交換している。事故報告など各種提出時やコロナ関連での案件等で、各担当者とは関係性を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットより委員を選出し、定期的な会議と、年2回の研修で身体拘束をしないケアを実践している。	職員は、身体拘束をしないケアを基本として利用者と接している。指針をもとに適正化委員会や研修会を適宜開催し、正しい理解に繋がっている。委員は毎月目標を掲げ、職員のさらなる共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、虐待についても研修や勉強会において学びの機会を設けており、業務にも結びついている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すべての職員において、学びの機会を設けられていない。今後、施設内勉強会や、外部研修に参加できるように機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、私達に出来る事、出来ない事をお伝えし、納得していると理解しております。不安、疑問点も確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議において意見や要望があった際には全職員で周知しカンファレンスや管理職会議にて解決している。	利用者や家族から運営に対しての意見や要望は聞かれないが、出された時には会議で解決策を話し合うこととしている。家族には、面会時や電話、ブログ等で利用者の日常を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談やその都度、意見を聞く機会を設け改善するように取り組んでいる。	代表者は毎日事業所を訪れ、現状を把握している。職員はレクなど各業務を都度担い、また、利用者の担当者として知識や技術の向上に努めている。職員の要望で、2階ユニットに2台目のエアコンを設置し、暑さ対策に備えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料等は高いと思わないが、希望休や、有給休暇の取得は出来ている。職場の環境において冷房の増設し改善された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部研修が思うようにできなかった。実務者研修は、研修費交通費等全て会社負担で参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響の為、定期的に行われていた会議も中止を余儀なくされてしまった。Zoom会議で数回行われたのみであった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様・御家族様に認知症状や生活状況、生活暦、全身状態その方の想いを聞きアセスメントする。それを元に必要となるであろう支援方法等を、職員間でも情報共有する事で利用者様の尊厳を大切に、より良い信頼関係がスムーズに築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ここでの生活の説明・ホーム内見学を行い安心して利用していただける様、不安やホームで生活を営む上での御希望を伺っている。利用者様にとって安心して住みやすく、落ち着け終の棲家と思って頂ける様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談時などに、その方1人1人に合った支援が行えるように、生活への不安や要望を聞き、それにできるだけ応える様検討・考慮し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族ではないが、家族の思いで共に暮らしています(ご支援させております)安心して暮らしていただければ信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに近況、普段の生活の状況をお伝えし、把握して頂いている。また、これらの様子をブログにて中々面会に来られない方も日々の様子がわかるとの事で喜ばれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自身の自宅へ行かれたりしているが、コロナ禍の為、思うように外出が出来ていないが、人との関わりが途切れないように努めている。	面会も制限しているが、感染症状況を見極めコロナ対策を講じての数分の面会や、重篤時の面会は柔軟に対応している。恒例の神社への初詣や、少人数での花見を実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が常に把握し、必要に応じて介入することで、良好円滑な関係が築ける様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご近所の方が多く、道端でお会いした時には、職員や、入居者様の話をしたり関係性は継続されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを汲み取り敬意をもって接している。意思疎通が難しい方にも、これまでの生活歴を把握しご支援させて頂いている。	意思疎通ができる利用者は多くはないが、会話や表情、動作等から思いを察して応えるよう努めている。介護記録や管理日誌、申し送りノート、家族からの情報等を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族様から、生活歴やライフスタイル、趣味・嗜好などお聞きし、その人らしい生活が送れる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を生活記録に残し、利用者様の希望に沿ったケアに努めている。申し送りノートを活用し、何か変化があった際には職員全員が情報を共有し、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様より意向を聞き、本人の思いを汲み取り月に1度のカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで、利用者の状態を共有している。関わりから利用者や家族の要望等を汲み取ったり推し量って、ケアプランの更新時や急変時には、適切な支援目標を策定している。管理日誌には、サービス評価のチェック欄を設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年末より、紙媒体の記録様式より、スマホを活用した記録へ変更した。写真や動画を活用でき個人の様子がわかりやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その状況に柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり地域の人や場を借りた取り組みはほぼできていなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の内科往診と、それ以外の病院も昔より通われている病院に通院できるよう、ご家族様の協力もいただきながら行っている。	殆どの利用者は、協力医による訪問診療を選択している。従来からの外来受診は、基本的には家族支援としているが、困難な場合は相談に応じている。専門医への受診は家族対応としており、いずれも健康状態は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日頃から利用者様の健康状態の把握をし、往診に立ち会い、受診の同行もし、常に相談できる環境になっている(医療連携)。また、看護師が夕方巡回に来るだけでなく、夜間においても異常があった際は駆けつけてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は職員もお見舞いをし、状態の把握を行う。またムンテラにも同席させて頂き方向性についても検討をしている。また利用者様の環境の変化がないように通院でフォローできる際はフォローを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちんと十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際重度化の指針は説明しており常時医療が必要な際はホームでの対応に限界があることもお伝えしている。また重度化した際はご家族様と話し合いをし利用者様にとってより良い環境で終末期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に対しては、入居時に事業所として出来ること出来ないことを表記した指針で説明している。重篤時は家族に意思確認を行い、利用者の望むターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しすぐ確認出来る場所に保管している。また消防署で行なわれている救命救急の講習を受講し実践力を身に付けられるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度防災避難訓練を実践すると共に消防への自動通報システム・スプリンクラー・セコムへの自動通報システムも設置している。又最近では自然災害が多く職員1人ひとりの意識改革も図っている。	年2回、地震を含む日中・夜間想定火災避難訓練を実施している。発電機や食料など必要な品を用意し、自然災害に対しては、イメージトレーニングで意識付けをしている。管理日誌には、防災のチェック欄を設けるなど、危機管理を高めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳をもって接している。	接遇に対しては常に向上を目指しており、管理者や各ユニットリーダーは、職員に慣れと親しみの違いや、言葉遣いなど適切なケアのあり方を説明している。申し送り時は固有名詞を出さず、記録は電子機器を活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを日頃の会話や表情から汲み取って希望に沿った暮らしができるように利用者様の顔を毎日きちんと見ていくように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ入居者様との時間が限られているが、その人らしい暮らしができるよう少しでも時間をとり支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問し散髪や毛染めをされる方もいる。美容室で切られる方もいる。ホームでは身だしなみ以外にも化粧をされたりスカーフを巻いたりとおしゃれに対する支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ濃厚影響により、職員は別室で食事を取っている。(コロナが収束したらまた一緒にの空間で食事の予定)食器拭きなどのお手伝いをしてきている。	献立と食材は業者から届いているが、菜園の野菜も活用して、利用者の食が進むような味付けや盛りつけに努めている。別枠の食材費で、利用者の望みに応えてピザや寿司等の出前、誕生日のケーキなどで、ちょっとした幸福感に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミを付けたり、刻みや介護食へその方が食べやすい形態へ変更している。ひとり一人に合った支援ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内状況により、口腔内ティッシュや、スポンジを用いて清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、トイレで排泄ができるよう個々のタイミングを見測り誘導している。オムツをさせている方にも、不快な時間が長ならないように支援している。	排泄の形態は利用者一人ひとり異なっているが、職員は、トイレでの排泄を基本として支援している。夜間時のみポータブルトイレの使用や、衛生用品は必要最低限にするなど、利用者の尊厳維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳製品やお通じに良い食べ物や飲み物を促したり、水分を多く摂れるよう心がけている。また体操や散歩を促し、負担のかからない程度に体を動かすよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた職員で、他の業務もあり、お誘いしても拒否があったり、便汚染で急遽のシャワー浴等ひとり1人の希望での入浴は出来ていない。ただ、入浴時はひとり一人ゆったりと入浴ができています。	入浴は、1人入浴を見守り、複数介助やリフトを活用することもあるが、湯船で寛げるよう支援している。状況により足湯にタオルを掛けてのシャワー浴で清潔を保持している。入浴時間は利用者にとって歌ったり、職員との会話を楽しむ機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見て、休息の声掛けをしている。夜間、不穏・不安時は傾聴、声掛けをし安心して眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された際には、体調に変化がないか十分注意している。また、内服間違いが無いように複数人でチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず、ゆったりと過ごしていただいている。やりたい事や、お手伝い等役割持ち、張り合いのある生活も送られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出がほとんどできなかった。	現在は、感染状況を確認しながらドライブで初詣や桜、ラベンダー、紅葉見物を楽しんでいる。テラスでお茶会や広い敷地内のベンチで日光浴、花壇や菜園を眺めながらの散歩、外来受診後は遠回りして帰宅している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員が、施設での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話ができるようにしており、年賀状のやり取りやお手紙も届いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良い時間を過ごしていただけるように、温度、湿度、席の配置に気を付けている。また、共用部には四季を感じる装飾を心掛けている。自室に思い出の写真や絵などを飾られている。	居間は回廊式になっており、歩行訓練に活用している。絵画やテレビ等がある談話室は、ソファでテレビを観るなど寛げる空間になっている。窓から見える住宅街の樹木や花々、中学生の登下校が目につき、利用者の癒しとなっている。共有空間には、折々の季節飾りを施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性を考慮しリビングの席の配置を考えラウンジや和室を有効に活用し気の合った利用者様同士で過ごせるような工夫を行っている。居室でも過ごしやすい様に温度や湿度の環境の整備に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具を配置し写真や手作りの作品などを置きご本人が居心地良くいられる空間作りの工夫をご本人様とご家族様と職員とで行っている。	利用者は日常的に居間に集い、居室は、休息の場所になっている。室内の調度品や仏壇等は、動線を確認して配置している。家族写真や絵画、利用者の手作りの品々が飾られているなど、安心な居場所作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、歩行器など福祉用具の使用や手すり、クッションフロアの設備など住環境を整えている。浴室にはリフトを設備し、安全・安心した入浴の提供に努めている。		